



10月～4月 連載中 //

□問い合わせ まちづくり課 ☎内線344

第4回 誰もが参加できる

真鶴町まちづくり条例施行30年を迎える今年度、記念事業を開催しています。また、町民の方々による自主的な「美の基準」を巡るさまざまな活動も行われています。美しいまち真鶴を、みんなで創っていきましょう。

「美の基準」

イベント続きます！

知ろう！遊ぼう！真鶴かるた

1/27

10:00～12:00

申込不要／無料／大人も子どもも
町民センター 3階講堂



真鶴町の歴史・文化・名所・産業・特産などを詠んだ「真鶴かるた」。その中に、「美の基準」に関する札があることをご存じですか？

制作に関わった方をお招きして、制作までのお話を聞いたり、かるたの文章や絵を楽しむ時間を取りながら、かるた遊びをします。

お気軽に、お誘いあわせの上お越しください。

(問い合わせ先:まちづくり課／多田・石井)



「美の基準」は強制されるものではなく、みんなで創っていくものです。従ってこの「美の基準」には誰もが参加できます。
(『美の基準』3頁記載)

町民リレーコラム



まちへのラブレター

仁志しおり(写真家、真鶴カメラ主宰)

みなさまこんにちは。

真鶴を拠点に写真家として活動をしています、仁志(にし)しおりです。真鶴には4年前に移住をしてきました。わたくしが真鶴を知ったのは、『美の基準・デザインコードブック』を友人に見せてもらったことがきっかけでした。6年ほど前のことです。“まちづくり条例”と書かれたその本を、わたしは建築法が書かれてあるのかと思いページを開きました。しかし堅苦しい数値は一切出てきません。代わりに、「小さな人だまり」「さわれる花」「実のなる木」など文学的な言葉で真鶴らしさが表現されています。そのどれも決して華やかなものではなく、ありのままの普通の風景だということが伝わってきました。自然のランドスケープに溶け込むまちなみの中で、季節と共に生活をする人々の姿が思い浮かびました。そして、それが「美しさ」だから大事にしていこうという姿勢にとっても感動したことを覚えています。自分が忘れていた小さな日常の幸せを思い出させてくれたような気がしたからです。

「美の基準」は高度経済成長期に、リゾートマンションの建設ラッシュに抗うために制定されました。当時はマンションが建つ方がまちが潤うのではないかと思う人もいたかもしれませんが、しかし30年経ったいま、当時と変わらない町並み、自然、昔ながらの温かいコミュニティは、このまちにしかない価値であると感じます。そしてそれは、インターネットが普及し、サービスも物も簡単に買えるようになった現代において、とても大切なことのように感じます。一方で、現在、日本は人口減少が定着しています。真鶴でも空き家や商店街のシャッターが目につき、産業は低迷しています。まちは新たな荒波に抗わねばならない時期にきています。

先日「美の基準」施行30周年を記念したイベント「美の基準ウィーク」が開催されました。私自身もまた「美の基準」と向き合う機会となり、改めて「これはまちへのラブレターだ」と感じました。美の基準は時代に合わせて更新されるべくつくられています。わたし達は、今、何を大切に、何を变えていくべきなのか問われている気がします。日常の暮らしの中に溢れる地域愛が荒波に打ち勝てるのかどうか。次の30年に向けて、このまちのみなさんと一緒にトライしていきたい気持ちです。